校異源氏物語・みをつくし

さやかにみえ給し夢の後は院のみかとの御事をこゝろにかけきこえ給ひていかてかのしつみたまえむつみすくひ奉る事をせむとおほしなけきけるをかくかへりたまひてはその御いそきし給神無月に御八講し給世の人なひきつかうまつることむかしのやうなりおほきさき御なやみをもくおはしますうちにもつゐにこの人をえけたすなりなむ事と心やみおほしけれとみかとは院の御ゆいこんをおもひきこえ給ものゝむくひありぬへくおほしけるをなをしたて給て御心ちすゝしくなむおほしける時ときおこりなやませ給し御めもさはやき給ぬれとおほかた世にえなかくあるましうこゝろほそき事とのみひさしからぬ事をおほしつゝつねにめしありてけんしの君はまいり給世中のことなともへたてなくの給はせつゝ御ほいのやうなれは大かたの世の人もあいなくうれしきことによろこひきこえけるおりゐなむの御こゝろつかひちかくなりぬるにも内侍のかみ心ほそけによをおもひなけき給つるいとあはれにおほされけりおとゝうせ給大宮もたのもしけなくのみあつひ給へるにわか世残すくなき心ちするになむいといとおしうなこりなきさまにてとまり給はむとすらむゝかしより人にはおもひおとし給へれとみつからのこゝろさしの又なきならひにたゝ御事のみなむあはれにおほえけるたちまさる人又御ほいありてみたまふともをろかならぬ心さしはしもなすらはさらむとおもふさへこそ心くるしけれとてうちなき給ふ女君かほはいとあかくにほひてこほるはかりの御あい行にて涙もこほれぬるをよろつのつみわすれてあはれにらうたしと御覧せらるなとかみこをたにもたまへるましきくちおしうもあるかなちきりふかき人のためにはいまみいて給てむとおもふもくちをしやかきりあれはたゝ人にてそみたまはむかしなと行すゑのことをさへのたまはするにいとはつかしうもかなしうもおほえ給御かたちなとなまめかしうきよらにてかきりなき御心さしのとし月にそうやうにもてなさせ給にめてたき人なれとさしもおもひ給へらさりしけしき心はえなとものおもひしられたまふまゝになとてわか心のわかくいはけなきにまかせてさるさわきをさへひきいてゝわか名をはさらにもいはす人の御ためさへなとおほしいつるにいとうき御身なりあくるとしのきさらきに春宮の御元服の事あり十一になり給へとほとよりお

ほきにおとなしうきよらにてたゝけむしの大納言の御かほをふたつにうつしたらむやうにみえ給ふいとまはゆきまてひかりあひ給へるを世人めてたきものにきこゆれとはゝ宮いみしうかたはらいたきことにあひなく御こゝろをつくし給うちにもめてたしとみたてまつり給て世中ゆつりきこえ給へき事なとなつかしうきこえしらせ給おなし月の廿よ日御くにゆつりのことにはかなれはおほきさきおほしあはてたりかいなきさまなからもこゝろのとかに御らんせらるへき事をおもふなりとそきこえなくさめ給けるはうにはそ行殿のみこゐ給ひぬ世中あらたまりてひきかへ今めかしき事ともおほかり源氏大納言内大臣になり給ひぬかすさたまりてくつろく所もなかりけれはくはゝり給也けりやかて世のまつりことをしたまふへきなれとさやうのことしけきそくにはたえすなむとてちしのおとゝせふ正したまふへきよしゆつりきこえ給ふやまひによりてくらゐをかへしたてまつりてしをいよ　く老のつもりそひてさかしき事侍らしとうけひき申給はす人のくにゝもことうつり世中さたまらぬおりはふかき山にあとをたえたる人たにもおさまれる世にはしろかみもはちすいてつかへけるをこそまことのひしりにはしけれやまひにしつみてかへし申給けるくらゐを世中かはりてまたあらため給はむにさらにとかあるましうおほやけわたくしさためらるさるためしもありけれはすまひはて給はて大政大臣になり給ふ御としも六十三にそなり給世中すさましきによりかつはこもりゐ給ひしをとりかへしはなやき給へは御子ともなとしつむやうにものし給へるをみなうかひ給とりわきて宰相中将権中納言になり給かの四の君の御はらのひめ君十二になり給ふをうちにまいらせむとかしつき給かのたかさこうたひし君もかうふりせさせていとおもふさまなりはら　くに御こともいとあまたつき　くにおひいてつゝにきわゝしけなるを源氏のおとゝはうらやみ給大殿はらのわかきみ人よりことにうつくしうて内春宮の殿上したまふこひめ君のうせ給にしなけきを宮おとゝ又さらにあらためておほしなけくされとおはせぬなこりもたゝこのおとゝの御ひかりによろつもてなされ給てとしころおほししつみつるなこりなきまてさかへ給ふなをむかしに御心はへかはらす折ふしことにわたり給なとしつゝわか君の御めのとたちさらぬ人人も年ころのほとまかてちらさりけるはみなさるへきことにふれつゝよすかつけむことをおほしをきつるにさいはひ人おほくなりぬへし二条院にもおなしことまちきこえける人をあはれなるものにおほしてとしころのむねあくはかりとおほせは中将なかつかさやうの人　くにはほとほとにつけつゝなさけをみえ給に御いとまなくてほかありきもしたまはす二条院のひむかしなる宮院の御せ

うふむなりしをになくあらためつくらせ給ふ花ちるさとなとやうの心くるしき人　くすませむなとおほしあてゝつくろはせ給まことやかのあかしに心くるしけなりし事はいかにとおほしわするゝ時なけれはおほやけわたくしいそかしきまきれにえおほすまゝにもとふらひたまはさりけるを三月ついたちのほとこのころやとおほしやるに人しれすあはれにて御つかひありけりとくかへりまいりて十六日になむ女にてたいらかにものし給ふとつけきこゆめつらしき様にてさへあなるをおほすにをろかならすなとて京にむかへてかゝることをもせさせさりけむとくちおしうおほさるすくえうに御子三人みかときさきかならすならひてうまれたまふへしなかのおとりは大政大臣にてくらゐをきはむへしとかむかへ申たりし事さしてかなふなめりおほかたかみなきくらゐにのほりよをまつりこち給ふへき事さはかりかしこかりしあまたのさふ人とものきこえあつめたるをとしころは世のわつらはしさにみなおほしけちつるをたうたいのかく位にかなひ給ぬることを思のことうれしとおほすみつからもゝてはなれ給へるすちは更にあるましき事とおほすあまたのみこたちの中にすくれてらうたきものにおほしたりしかとたゝ人におほしをきてける御心を思にすくせとをかりけりうちのかくておはしますをあらはに人のしる事ならねとさうにむのことむなしからすと御こゝろのうちにおほしけり今ゆくするゑのあらましことをおほすに住吉の神のしるへまことにかの人も世になへてならぬすくせにてひか　くしきおやもおよひなき心をつかふにやありけむさるにてはかしこきすちにもなるへき人のあやしきせかいにてむまれたらむはいとをしうかたしけなくもあるへきかなこのほとすくしてむかへてんとおほしてひむかしの院いそきつくらすへきよしもよをしおほせ給ふさる所にはか　くしき人しもありかたからむをおほしてこ院にさふらひしせむしのむすめ宮内卿の宰相にてなくなりにし人の子なりしをはゝなともうせてかすかなる世にへけるかはかなきさまにてこうみたりときこしめしつけたるをしるたよりありてことのついてにまねひきこえける人めしてさるへきさまにのたまひちきるまたわかくなに心もなき人にてあけ暮人しれぬあはら屋になかむる心ほそさなれはふかうもおもひたとらすこの御あたりのことをひとへにめてたうおもひきこえてまいるへきよし申させたりいとあはれにかつはおほしていたしたて給ふものゝついてにいみしうしのひまきれておはしまひたりさはきこえなからいかにせましとおもひみたれけるをいとかたしけなきによろつおもひなくさめてたゝのたまはせむまゝにときこゆよろしきひなりけれはいそかしたて給ひてあやしうおもひやりなきやうなれと思ふさまことなる

事にてなむみつからもおほえぬすまひにむすほゝれたりしためしをおもひよそへてしはしねむし給へなとことのありやうくはしうかたらひ給ふうへの宮つかへ時　くせしかはみたまふおりもありしをいたうおとろへにけりいへのさまもいひしらすあれまとひてさすかにおほきなる所のこたちなとうとましけにいかてすくしつらむとみゆ人のさまわかやかにおかしけれは御覧しはなたれすとかくたはふれ給ひてとりかへしつへき心ちこそすれいかにとの給ふにつけてもけにおなしうは御みちかふもつかうまつりなれはうきみもなくさみなましとみたてまつる

かねてよりへたてぬ中とならはねとわかれはおしき物にそありけるしたひやしなましとのたまへはうちはらひて

うちつけのわかれをおしむかことにておもはむかたにしたひやはせぬなれてきこゆるをいたしとおほすくるまにてそ京のほとはゆきはなれけるいとしたしき人さしそへ給て夢もらすましく口かため給てつかはす御はかしさるへきものなと所せきまておほしやらぬくまなしめのとにもありかたうこまやかなる御いたはりのほとあさからす入道のおもひかしつきおもふらむ有さまおもひやるもほゝゑまれたまふことおほく又あはれに心くるしうもたゝこの事の御心にかゝるもあさからぬにこそは御文にもをろかにもてなし思ふましとかへす　くいましめたまへり

いつしかも袖うちかけむおとめこか世をへてなつるいはのおひさきつのくにまては船にてそれよりあなたはむまにていそきいきつきぬ入道まちとりよろこひかしこまりきこゆることかきりなしそなたにむきておかみきこえてありかたき御心はへをおもふにいよ　くいたはしうおそろしきまて思ふちこのいとゆゝしきまてうつくしうおはすることたくひなしけにかしこき御心にかしつききこえむとおほしたるはむへなりけりとみたてまつるにあやしきみちにいてたちて夢の心ちしつるなけきもさめにけりいとうつくしうらふたうおほえてあつかひきこゆこもちの君も月ころ物をのみ思ひしつみていとゝよはれる心ちにいきたらむともおほえさりつるをこの御をきてのすこしものおもひなくさめらるゝにそかしらもたけて御つかひにもになきさまの心さしをつくすとくまいりなむといそきくるしかれはおもふ事ともすこしきこえつゝけて

ひとりしてなつるは袖のほとなきにおほふはかりのかけをしそまつときこえたりあやしきまて御心にかゝりゆかしうおほさる女君にはことにあらはしておさおさきこえ給はぬをきゝあはせ給ふこともこそとおほしてさこそあなれあ

やしうねちけたるわさなりやさもおはせなむと思ふあたりには心もとなくておもひのほかにくちおしくなん女にてあなれはいとこそものしけれたつねしらてもありぬへき事なれとさはえおもひすつましきわさなりけりよひにやりてみせたてまつらむにくみ給ふなよときこえたまへはおもてうちあかみてあやしうつねにかやうなるすちのたまひつくる心のほとこそわれなからうとましけれものにくみはいつならふへきにかとゑしたまへはいとよくうちゑみてそよたかならはしにかあらむおもはすにそみえ給ふや人の心よりほかなる思ひやりことしてものゑしなとしたまふよおもへはかなしとてはて　くはなみたくみ給ふとしころあかすこひしと思きこえ給し御心のうちともおり　くの御ふみのかよひなとおほしいつるにはよろつのことすさひにこそあれと思ひけたれ給ふこの人をかうまておもひやりことゝふは猶思ふやうの侍そまたきにきこえは又ひか心えたまふへけれはとのたまひさして人からのおかしかりしも所からにやめつらしうおほえきかしなとかたりきこえ給あはれなりしゆふへのけふりいひしことなとまほならねとそのよのかたちほのみしことのねのなまめきたりしもすへて御心とまれるさまにのたまひいつるにも我は又なくこそかなしと思ひなけきしかすさひにても心をわけ給けむよとたゝならす思ひつゝけ給て我はわれとうちそむきなかめてあはれなりしよの有さまなとひとりことのやうにうちなけきて

おもふとちなひくかたにはあらすともわれそけふりにさきたちなましなにとか心うや

たれにより世をうみ山に行めくりたえぬなみたにうきしつむみそいてやいかてかみえたてまつらむいのちこそかなひかたかへいものなめれはかなき事にて人に心をかれしとおもふもたゝひとつゆへそやとてさうの御ことひきよせてかきあはせすさひ給てそゝのかしきこえたまへとかのすくれたりけむもねたきにやてもふれ給はすいとおほとかにうつくしうたをやきたまへるものからさすかにしふねき所つきてものゑししたまへるか中　くあひ行つきてはらたちなし給をおかしう見所ありとおほす五月五日にそいかにはあたるらむと人しれすかすへ給てゆかしうあはれにおほしやるなに事もいかにかひあるさまにもてなしうれしからましくちをしのわさやさる所にしも心くるしきさまにていてきたるよとおほすおとこ君ならましかはかうしも御心にかけ給ましきをかたしけなういとをしうわか御すくせもこの御事につけてそかたほなりけりとおほさるゝ御つかひいたしたて給ふかならすそのひたかへすまかりつけとのたまへは五日にいきつきぬおほしやる事もありかたうめてたきさまにてまめ　くしき御とふら

ひもあり

うみ松やときそともなきかけにゐてなにのあやめもいかにわくらむ心のあくかるゝまてなむ猶かくてはえすくすましきをおもひたち給ひねさりともうしろめたき事はよもとかい給へり入道れいのよろこひなきしてゐたりかゝるおりはいけるかひもつくりいてたることはりなりとみゆこゝにもよろつところせきまておもひまうけたりけれとこの御つかひなくはやみの夜にてこそくれぬへかりけれめのともこの女君のあはれに思やうなるをかたらひ人にて世のなくさめにしけりおさ　くおとらぬ人もるひにふれてむかへとりてあらすれとこよなくおとろへたるみやつかへ人なとのいはほの中たつぬるかおちとまれるなとこそあれこれはこよなうこめき思あかれりきゝ所ある世の物かたりなとしておとゝの君の御有さま世にかしつかれ給へる御おほえのほとも女心ちにまかせてかきりなくかたりつくせはけにかくおほしいつはかりのなこりとゝめたるみもいとたけくやう　くおもひなりけり御ふみもゝろともにみて心のうちにあはれかうこそおもひの外にめてたきすくせはありけれうきものはわかみこそありけれとおもひつゝけらるれとめのとのことはいかになとこまかにとふらはせ給へるもかたしけなくなに事もなくさめけり御返には

かすならぬみしまかくれになくたつをけふもいかにとゝふ人そなきよろつに思ふ給へむすほゝるゝ有さまをかくたまさかの御なくさめにかけ侍いのちのほともはかなくなむけにうしろやすくおもふ給へをくわさもかなとまめやかにきこえたりうちかへしみ給つゝあはれとなかやかにひとりこち給を女君しりめにみをこせてうらよりをちにこく船のとしのひやかにひとりこちなかめ給ふをまことはかくまてとりなし給ふよこはたゝかはかりのあはれそやところのさまなとうち思ひやる時　くきしかたの事わすれかたきひとりことをようこそきゝすくい給はねなとうらみきこえ給てうはつゝみはかりをみせたてまつらせ給ふふてなとのいとゆへつきてやむことなき人くるしけなるをかゝれはなめりとおほすかくこの御心とり給ふほとに花ちる里なとをかれはて給ひぬるこそいとをしけれおほやけこともしけく所せき御みにおほしはゝかるにそへてもめつらしく御めおとろくことのなきほと思ひしつめ給なめりさみたれつれ　くなるころおほやけわたくし物しつかなるにおほしおこしてわたり給へりよそなからもあけ暮につけてよろつにおほしやりとふらひきこえ給をたのみにてすくい給所なれはいまめかしう心にくきさまにそはみうらみ給ふへきならねは心やすけなり年比にいよ　くあれまさりすこけにておはす女御の君に御物かたりきこえ給て

西のつまとに夜ふかして立より給へり月おほろにさし入ていとゝえむなる御ふるまひつきもせすみえ給ふいとゝつゝましけれとはしちかふうちなかめ給けるさまなからのとやかにてものし給ふけはひいとめやすしくひなのいとちかふなきたるを

くひなたにおとろかさすはいかにしてあれたるやとに月をいれましといとなつかしういひけち給へるそとり　くにすてかたきよかなかゝるこそ中　くみもくるしけれとおほす

をしなへてたゝくくひなにおとろかはうはの空なる月もこそいれうしろめたうとはなをことにきこえ給へとあた　くしきすちなとうたかはしき御こゝろはへにはあらすとし比まちすくしきこえ給へるもさらにをろかにはおほされさりけり空ななかめそとたのめきこえ給ひしおりの事ものたまひいてゝなとてたくひあらしといみしうものを思しつみけむうきみからはおなしなけかしさにこそとのたまへるもおいらかにらうたけなりれいのいつこの御ことのはにかあらむつきせすそかたらひなくさめきこえ給かやうのついてにもかの五せちをおほしわすれす又みてしかなと心にかけ給へれといとかたき事にてえまきれ給はす女ものおもひたえぬをおやは万におもひいふ事もあれとよにへんことを思ひたえたり心やすきとのつくりしてはかやうの人つとへてもおもふさまにかしつき給ふへき人もいてものし給はゝさる人のうしろみにもとおほすかの院のつくりさま中　くみところおほくいまめひたりよしあるすらうなとをえりてあて　くにもよをし給ふないしのかむの君なをえおもひはなちきこえ給はすこりすまにたちかへり御心はへもあれと女はうきにこり給てむかしのやうにもあひしらへきこえ給はす中　くところせうさう　くしう世中おほさる院はのとやかにおほしなりて時　くにつけておかしき御あそひなとこのましけにておはします女御かういみなれいのことさふらひ給へと春宮の御はゝ女御のみそとりたてゝ時めき給ふ事もなくかむの君の御おほえにをしけたれたまへりしをかくひきかへめてたき御さいはひにてはなれいてゝ宮にそひたてまつり給へるこのおとゝの御とのゐところはむかしのしけいさなりなしつほに春宮はおはしませはちかとなりの御心よせになに事もきこえかよひて宮をもうしろみたてまつり給にうたう后の宮御くらゐをまたあらため給へきならねは太上天皇になすらへてみふ給まはらせ給院司ともなりてさまことにいつくし御をこなひくとくの事をつねの御いとなみにておはしますとしころ世にはゝかりていていりもかたくみたてまつり給はぬなけきをいふせくおほしけるにおほすさまにてまいりまかて給もいと

めてたけれはおほきさきはうきものはよなりけりとおほしなけくおとゝはことにふれていとはつかしけにつかまつり心よせきこえ給も中　くいとをしけなるを人もやすからすきこえけり兵部卿のみことしころの御こゝろはへのつらくおもはすにてたゝ世のきこえをのみおほしはゝかりたまひし事をおとゝはうきものにおほしをきてむかしのやうにもむつひきこえ給はすなへての世にはあまねくめてたき御心なれとこの御あたりは中　くなさけなきふしもうちませ給を入道の宮はいとをしうほいなきことにみたてまつり給へり世中の事たゝなかはをわけておほきおとゝこのおとゝの御まゝなり権中納言の御むすめその年の八月にまいらせ給おほち殿ゐたちてきしきなといとあらまほし兵部卿宮のなかの君もさやうに心さしてかしつき給名たかきをおとゝは人よりまさり給へとしもおほさすなむありけるいかゝし給はむとすらむその秋すみよしにまうて給願ともはたし給へけれはいかめしき御ありきにて世中ゆすりてかむたちめ殿上人我も　くとつかふまつり給おりしもかのあかしの人としことのれいのことにてまうつるをこそことしはさはる事ありてをこたりけるかしこまりとりかさねておもひたちけり船にてまうてたりきしにさしつくるほとみれはのゝしりてまうて給ふ人のけはひなきさにみちていつくしきかむたからをもてつゝけたりかく人とをつらなとさうそくをとゝのへかたちをえらひたりたかもうて給へるそととふめれは内大臣殿の御願はたしにまうて給ふをしらぬ人もありけりとてはかなき程のけすたに心ちよけにうちはらふけにあさましう月日もこそあれ中　くこの御有さまをはるかにみるも身のほとくちをしうおほゆさすかにかけはなれたてまつらぬすくせなからかくゝちおしきゝわの物たにもの思なけにてつかうまつるをいろふしに思ひたるになにのつみふかき身にて心にかけておほつかなうおもひきこえつゝかゝりける御ひゝきをもしらてたちいてつらむなとおもひつゝくるにいとかなしうて人しれすしほたれけり松はらのふかみとりなるに花もみちをこきちらしたるとみゆるうへのきぬのこきうすきかすしらす六位の中にも蔵人はあをいろしるくみえてかのかものみつかきうらみし右近のせうもゆけゐになりてこと　くしけなるすいしんくしたる蔵人なりよしきよもおなしすけにて人よりことにもの思ひなきけしきにておとろおとろしきあかきぬすかたいときよけなりすへてみし人　くひきかへはなやかになに事おもふらむとみえてうちちりたるにわかやかなるかむたちめ殿上人の我も　くとおもひいとみむまくらなとまてかさりをとゝのへみかき給へるはいみしきものにゐなか人もおもへり御車をはるかにみやれはなか　く心やましくて恋しき御かけをもえみたてま

つらすかはらのおとゝの御れいをまねひてわらはすいしんを給はり給けるいとをかしけにさうそきみつらゆひてむらさきすそこのもとゆひなまめかしうたけすかたとゝのひうつくしけにて十人さまことにいまめかしうみゆおほとのはらのわか君かきりなくかしつきたてゝむまそひわらはのほとみなつくりあはせてやうかへてさうそきわけたり雲井はるかにめてたくみゆるにつけてもわか君のかすならぬさまにてものし給をいみしと思いよ　くみやしろのかたをおかみきこゆくにのかみまいりて御まうけれいの大臣なとのまいり給よりはことによになくつかうまつりけむかしいとはしたなけれはたちましりかすならぬ身のいさゝかの事せむに神もみいれかすまへ給ふへきにもあらすかへらむにも中そらなりけふはなにはに船さしとめてはらへをたにせむとてこきわたりぬ君はゆめにもしり給はす夜ひとよ色　くのことをせさせ給ふまことに神のよろこひ給へき事をしつくしてきしかたの御願にもうちそへありかたきまてあそひのゝしりあかし給これみつやうの人は心のうちに神の御とくをあはれにめてたしとおもふあからさまにたちいて給へるにさふらひてきこえいてたり

　すみよしのまつこそものはかなしけれ神世のことをかけておもへはけにとおほしいてゝ

　あらかりしなみのまよひに住よしの神をはかけてわすれやはするしるしありなとのたまふもいとめてたしかのあかしの舟このひゝきにをされてすきぬる事もきこゆれはしらさりけるよとあはれにおほす神の御しるへをおほしいつるもをろかならねはいさゝかなるせうそこをたにして心なくさめはや中　くにおもふらむかしとおほすみやしろたちたまて所　くにせうえうをつくし給ふなにはの御はらへなゝせによそをしうつかまつるほりえのわたりを御らむしていまはたおなしなにはなると御こゝろにもあらてうちすし給へるを御車のもとちかきこれみつうけ給はりやしつらむさるめしもやとれいにならひてふところにまうけたるつかみしかきふてなと御車とゝむる所にてたてまつれりをかしとおほしてたゝうかみに

　みをつくしこふるしるしにこゝまてもめくりあひけるえにはふかしなとて給へれはかしこのこゝろしれるしも人してやりけりこまなめてうちすき給ふにも心のみうこくに露はかりなれといとあはれにかたしけなくおほえてうちなきぬ

　かすならてなにはのこともかひなきになとみをつくしおもひそめけむたみのゝしまにみそきつかうまつる御はらへのものにつけてたてまつる日暮かたに

なり行ゆふしほみちきて入えのたつもこゑおしまぬほとのあはれなるおりからなれはにや人めもつゝますあひみまほしくさへおほさる

　露けさのむかしににたるたひころもたみのゝしまのなにはかくれすみちのまゝにかひあるせうえうあそひのゝしり給へと御心にはなをかゝりておほしやるあそひとものつとひまいれるかむたちめときこゆれとわかやかにことこのましけなるはみなめとゝめ給へかめりされといてやおかしきことも物のあはれも人からこそあへけれなのめなることをたにすこしあはきかたによりぬるは心とゝむるたよりもなきものをとおほすにをのか心をやりてよしめきあへるもうとましうおほしけりかの人はすくしきこえて又の日そよろしかりけれは御てくらたてまつるほとにつけたる願ともなとかつ　くはたしける又中　く物おもひそはりてあけ暮くちおしき身をおもひなけくいまや京におはしつくらむとおもふ日かすもへす御つかひありこのころのほとにむかへむことをそのたまへるいとたのもしけにかすまへのたまふめれといさやまたしまこきはなれなか空に心ほそきことやあらむとおもひわつらふ入道もさていたしはなたむはいとうしろめたうさりとてかくうつもれすくさむをおもはむも中　くきしかたの年ころよりも心つくしなりよろつにつゝましうおもひたちかたき事をきこゆまことやかのさい宮もかはり給にしかはみやすむ所のほり給てのちかはらぬさまになに事もとふらひきこえ給事はありかたきまてなさけをつくし給へとむかしたにつれなかりし御心はへの中　くならむ名残はみしとおもひはなち給へれはわたり給なとすることはことになしあなかちにうこかしきこえ給てもわか心なからしりかたくとかくかゝつらはむ御ありきなとも所せうおほしなりにたれはしゐたるさまにもおはせすさい宮をそいかにねひなり給ぬらむとゆかしうおもひきこえ給なをかの六条のふる宮をいとよくすりしつくろひたりけれはみやひかにてすみ給けりよしつき給へることふりかたくてよき女坊なとおほくすいたる人のつとひところにてものさひしきやうなれと心やれるさまにてへたまふほとににはかにをもくわつらひ給ひてものゝいと心ほそくおほされけれはつみふかきところほとりにとしへつるもいみしうおほしてあまになり給ひぬおとゝきゝ給てかけ

　くしきすちにはあらねとなをさるかたのものをもきこえあはせ人におもひきこえつるをかくおほしなりにけるかくちをしうおほえ給へはおとろきなからわたり給へりあかすあはれなる御とふらひきこえ給ふちかき御まくらかみにおましよそひてけうそくにをしかゝりて御返なときこえ給ふもいたうよはり給へるけはひなれはたえぬこゝろさしのほとはえみえたてまつらてやとくちおしうて

いみしうない給かくまてもおほしとゝめたりけるを女もよろつにあはれにおほして斎宮の御事をそきこえ給心ほそくてとまり給はむをかならすことにふれてかすまへきこえ給へ又みゆつる人もなくたくひなき御ありさまになむかひなきみなからもいましはし世中をおもひのとむるほとはとさまかうさまにものをおほししるまてみたてまつらむとこそ思たまへつれとてもきえいりつゝない給かゝる御事なくてたにおもひはなちきこえさすへきにもあらぬをまして心のをよはむにしたかひてはなに事もうしろみきこえむとなんおもふ給ふるさらにうしろめたくなおもひきこえ給そなときこえたまへはいとかたき事まことにうちたのむへきおやなとにてみゆつる人たに女おやにはなれぬるはいとあはれなることにこそ侍めれましておもほし人めかさむにつけてもあちきなきかたやうちましり人に心もをかれ給はむうたてあるおもひやり事なれとかけてさやうのよついたるすちにおほしよるなうき身をつみ侍にも女はおもひの外にてもの思をそふるものになむ侍けれはいかてさるかたをもてはなれてみたてまつらむとおもふ給ふるなときこえ給へはあひなくもの給かなとおほせとゝしころによろつおもふ給へしりにたるものをむかしのすき心の名残ありかほにの給ひなすもほいなくなむよしをのつからとてとはくらうなりうちはおほとのあふらのほのかにものよりとほりてみゆるをもしもやとおほしてやをらみき丁のほころひよりみたまへは心もとなきほとのほかけに御くしいとおかしけにはなやかにそきてよりゐたまへるゐにかきたらむさましていみしうあはれなり丁のひむかしおもてにそひふし給へるそみやならむかしみき丁のしとけなくひきやられたるより御めとゝめてみとをし給へれはつらつえつきていとものかなしとおほいたるさまなりはつかなれといとうつくしけならむとみゆ御くしのかゝりたるほとかしらつきけはひあてにけたかきものからひちゝかにあひ行つき給へるけはひしるくみえ給へは心もとなくゆかしきにもさはかりのたまふものをとおほしかへすいとくるしさまさり侍かたしけなきをはやわたらせ給ねとて人にかきふせられ給ふちかくまいりきたるしるしによろしうおほされはうれしかるへきを心くるしきわさかないかにおほさるゝそとてのそき給ふけしきなれはいとをそろしけに侍やみたり心ちのいとかくかきりなるおりしもわたらせ給へるはまことにあさからすなむおもひ侍ことをすこしもきこえさせつれはさりともとたのもしくなむときこえさせ給かゝる御ゆいこむのつらにおほしけるもいとゝあはれになむこ院のみこたちあまたものし給へとしたしくむつひおもほすもおさ　くなきをうへのおなしみこたちのうちにかすまへきこえ給しかはさこそはたのみきこえ

侍らめすこしおとなしきほとになりぬるよはひなからあつかふ人もなけれはさう　くしきをなときこえてかへり給ぬ御とふらひいますこしたちまさりてしは

　くきこえ給ふ七八日ありてうせ給にけりあえなうおほさるゝによもいとはかなくてもの心ほそくおほされてうちへもまいり給はすとかくの御事なとをきてさせ給ふ又たのもしき人もことにおはせさりけりふるき斎宮の宮つかさなとつかうまつりなれたるそわつかに事ともさためける御みつからもわたり給へり宮に御せうそこきこえ給なに事もおほえ侍らてなむと女別当してきこえ給へりきこえさせの給をきし事もはへしをいまはへたてなきさまにおほされはうれしくなむときこえ給て人　くめしいてゝあるへき事ともおほせ給ふいとたのもしけにとしころの御心はへとりかへしつへうみゆいといかめしうとのゝ人　くかすもなうつかうまつらせ給へりあはれにうちなかめつゝ御さうしにてみすおろしこめてをこなはせ給ふ宮にはつねにとふらひきこえ給やう　く御心しつまり給てはみつから御かへりなときこえ給ふつゝましうおほしたれと御めのとなとかたしけなしとそゝのかしきこゆるなりけり雪みそれかきみたれあるゝ日いかに宮のありさまかすかになかめ給ふらむとおもひやりきこえ給て御つかひたてまつれ給へりたゝいまの空をいかに御覧すらむ

　ふりみたれひまなき空になき人のあまかけるらむやとそかなしき空いろのかみのくもらはしきにかい給へりわかき人の御めにとゝまるはかりと心してつくろひ給へるいとめもあやなり宮はいときこえにくゝしたまへとこれかれ人つてにはいとひむなきことゝせめきこゆれはにひいろのかみのいとかうはしうえむなるにすみつきなとまきらはして

　きえかてにふるそかなしきかきくらしわか身それともおもほえぬよにつゝましけなるかきさまいとおほとかに御てすくれてはあらねとらうたけにあてはかなるすちにみゆくたり給しほとより猶あらすおほしたりしをいまは心にかけてともかくもきこえよりぬへきそかしとおほすにはれいのひきかへしいとをしくこそこ宮すむところのいとうしろめたけに心をき給しをことはりなれと世中の人もさやうにおもひよりぬへきことなるをひきたかへこゝろきよくてあつかひきこえむうへのいますこしものおほしゝるよはひにならせ給なは内すみせさせたてまつりてさう　くしきにかしつきくさにこそとおほしなるいとまめやかにねんころにきこえ給てさるへきおり　くはわたりなとし給ふかたしけなくともむかしの御名残におほしなすらへてけとをからすもてなさせ給はゝなむほいなる心ちすへきなときこえたまへとわりなくものはちをしたまふおくまりたる

人さまにてほのかにも御こゑなときかせたてまつらむはいとよになくめつらかなる事とおほしたれは人　くもきこえわつらひてかゝる御心さまをうれへきこえあへり女へたう内侍なといふ人　くあるははなれたてまつらぬわかむとをりなとにて心はせある人　くおほかるへしこの人しれすおもふかたのましらひをせさせたてまつらむに人におとりたまふましかめりいかてさやかに御かたちをみてしかなとおほすもうちとくへき御おや心にはあらすやありけむわか御心もさためかたけれはかくおもふといふ事も人にもゝらし給はす御わさなとの御事をもとりわきてせさせたまへはありかたき御心を宮人もよろこひあへりはかなくすくる月日にそへていとゝさひしく心ほそき事のみまさるにさふらふ人　くもやう　くあかれゆきなとしてしもつかたの京極わたりなれは人けとをく山てらの入あひのこゑ　くにそへてもねなきかちにてそすくし給ふおなしき御おやときこえしなかにもかた時のまもたちはなれたてまつり給はてならはしたてまつり給ひて斎宮にもおやそひてくたり給事はれいなきことなるをあなかちにいさなひきこえ給し御心にかきりあるみちにてはたくひきこえ給はすなりにしをひるよなうおほしなけきたりさふらふ人　くたかきもいやしきもあまたありされとおとゝの御めのとたちたにこゝろにまかせたる事ひきいたしつかうまつるなゝとおやかり申給へはいとはつかしき御ありさまにひんなき事きこしめしつけられしといひおもひつゝはかなき事のなさけも更につくらす院にもかのくたり給し大極殿のいつかしかりしきしきにゆゝしきまてみえ給し御かたちをわすれかたうおほしをきけれはまいり給て斎院なと御はらからの宮　くおはしますたくひにてさふらひ給へとみやす所にもきこえ給きされとやむことなき人　くさふらひ給ふにかす　くなる御うしろみもなくてやとおほしつゝみうへはいとあつしうおはしますもおそろしう又ものおもひやくはへ給はんとはゝかりすくし給しをいまはましてたれかはつかうまつらむと人　くおもひたるをねむころに院にはおほしのたまはせけりおとゝきゝ給て院より御けしきあらむをひきたかへよことり給はむをかたしけなき事とおほすに人の御ありさまのいとらうたけにみはなたむは又くちをしうて入道の宮にそきこえたまひけるかう　くのことをなむおもふ給へわつらふにはゝみやすむ所いとおも　くしく心ふかきさまにものし侍しをあちききなきすき心にまかせてさるましきなをもなかしうきものにおもひをかれ侍にしをなんよにいとおしくおもひたまふるこの世にてそのうらみの心とけすすき侍にしをいまはとなりてのきはにこの斎宮の御事をなむものせられしかはさもきゝをき心にものこすましうこそはさすかにみをき給けめ

とおもひ給ふるにもしのひかたうおほかたのよにつけてたに心くるしき事はみきゝすくされぬわさに侍をいかてなきかけにてもかのうらみわするはかりとおもひ給ふるをうちにもさこそおとなひさせ給へといときなき御よはひにおはしますをすこし物の心しる人はさふらはれてもよくやとおもひ給ふるを御さためになときこえたまへはいとようおほしよりけるを院にもおほさむ事はけにかたしけなういとをしかるへけれとかの御ゆひこむをかこちてしらすかほにまいらせたてまつりたまへかしいまはたさやうの事わさともおほしとゝめす御をこなひかちになり給てかうきこえ給をふかうしもおほしとかめしとおもひたまふるさらは御けしきありてかすまへさせ給はゝもよをしはかりのことをそふるになし侍らむとさまかうさまにおもひたまへのこす事なきにかくまてさはかりの心かまへもまねひ侍るによ人やいかにとこそはゝかり侍れなときこえたまてのちにはけにしらぬやうにてこゝにわたしたてまつりてむとおほす女君にもしかなん思ひかたらひきこえてすくひ給はむにいとよきほとなるあはひならむときこえしらせたまへはうれしきことにおほして御わたりのことをいそき給ふ入道の宮兵部卿の宮の姫君をいつしかとかしつきさはき給ふめるをおとゝのひまある中にていかゝもてなしたまはむと心くるしくおほす権中納言の御むすめはこき殿の女御ときこゆおほとのゝ御こにていとよそほしうもてかしつきたまふうへもよき御あそひかたきにおほいたり宮の中の君もおなしほとにおはすれはうたてひゐなあそひの心ちすへきをおとなしき御うしろみはいとうれしかへいことゝおほしの給てさる御けしききこえ給つゝおとゝのよろつにおほしいたらぬことなくおほやけかたの御うしろみはさらにもいはすあけ暮につけてこまかなる御心はへのいとあはれにみえ給ふをたのもしきものにおもひきこえ給ていとあつしくのみおはしませはまいりなとし給ても心やすくさふらひたまふこともかたきをすこしおとなひてそひさふらはむ御うしろみはかならすあるへきことなりけり